

2016

なか国際交流 ラウンジ 日本語教室

なかラウンジ入門シラバス

はじめて日本語を学ぶ人のための
日本語導入6回コース

はじめに

なか国際交流ラウンジ日本語教室は、60回90時間限定で初期支援を重視しています。教室は週2回開催され、固定メンバーによるグループ学習〔約6人〕が中心です。全部で5グループあり、時に全体活動も行います。

- <教室の目標>
- ・生活の日本語を学ぶ
 - ・関係づくりを大切にする

私たちの失敗が原点で、この入門シラバスが生まれました。ひらがなばかり詰め込んで意欲をそいだり、教科書通りに進めて盛りだくさんになってしまったり・・・入門グループの出席がゼロという日もありました。そんな失敗から、来たばかりで日常生活に不慣れな方でもゆったりと安心して学んでいける、スパイラルに少しずつ学び自分のことを発信できる、そんな工夫をしてみました。この度、1年の試行を経て、公開することになりました。

なかラウンジ入門シラバス

— はじめて日本語を学ぶグループのための日本語導入6回コース —

目 次

活動回	週数	活動	会話の話題と表記	ページ
第1回目	第1週目 - ①	はじめての にほんご (1)	・自己紹介① ・動詞でおしゃべり ・表記① 日本語の文字と私の名前	2
第2回目	第1週目 -②	はじめての にほんご (2)	・自己紹介② 名前を聞く ・時間と教室用語 ・「朝ごはん」 ・表記② あいさつ・名前など	4
第3回目	第2週目 -①	いつ にほんに きましたか	・自己紹介③ 来日/家の場所/行ったところ ・表記③ 場所のことばなど	8
第4回目	第2週目 -②	レストランに いきますか レストランで ちゅうもんする	・レストランで ちゅうもん ・表記④ 指示語・メニュー・国など	11
第5回目	第3週目 -①	なかラウンジは どこですか	・場所を尋ねる ・表記⑤ 建物の名前など	14
第6回目	第3週目 -②	かいもの	・かいもの ・表記⑥品物の名前など	16
オリジナル教材リスト				19

このシラバスの特徴

《初日から親しむ動詞、動詞からひろがるやりとり、やりとりから学ぶかな学習》

目標・初日から動詞(「食べます」等)を使って自分のことを話し、会話に慣れる。お互いを知る。

- ・動詞「ます形」の活用に慣れる。名詞、形容詞、動詞の分類を意識できる。
- ・やりとりした言葉を使って文字に親しむ。50音図の表規則を理解する。

ポイント

- ・テーマに必要な語彙を**当面必要な分**だけ扱う (あえて全体を網羅しない)。
例:「レストランで注文する」の場合、「ひとつ、ふたつ、みっつ」のみ扱う。
- ・**スパイラルに学ぶ**。『にほんごこれだけ!』(ココ出版)を併用。(以下『これだけ』)
- ・『これだけ』したじき」の活用:分からないことがあった時に「**したじき**」を見る習慣をつける。
- ・「覚えてから発信」ではなく「**発信しながら覚える**」へ。
- ・上記6回シラバスはあくまで目安。学習者に合わせて臨機応変に対応(内容や回数の増減あり)。

第1回目	第1週目-①	はじめての にほんご（1） ・自己紹介① ・表記①導入
活 動	1 5 分	0. 全体会オリエンテーション：グループ発表と顔合わせ
	4 5 分	1. 会話：一番短い自己紹介（名前と国）
	2 0 分	2. 表記：日本語の文字とわたしの名前
	1 0 分	3. 振り返り
着 眼 点	> ラウンジ連絡先確認。欠席連絡について理解を得る。 > 日本語の音に慣れる。 ・発話してみる。 ・談話の流れに慣れる。 ・問いかけ「～は？」の理解。 > 動詞導入 生活密着の「食べます」・「飲みます」から動詞運用に慣れる。絵カードとジェスチャーで話題を理解してもらい、食生活を話題に個人の差を知ることを楽しむ経験を共有する。	

0. 全体会	準備する物・その他メモ						
・ オリエンテーション ・ グループ編成発表後、グループのテーブルへ移動	・ 担当サポーター挨拶 ○○です。よろしくお願 いします。 ・ 案内のことば みなさん、こちらです。 どうぞ。						
1. 会話： 一番短い自己紹介（45分）	準備する物・その他メモ						
◆今日の目標：アイスブレイキングと顔合わせ ①欠席連絡、ラウンジ窓口の理解を得る。 （サポーターの名前、グループ名、なかラウンジの電話番号 045-210-0667 を知り、欠席連絡について理解を得る。） ②自分の名前、国が言える。【場面1】 ③いちばん短い自己紹介ができる。【場面2】 ④「食べます・飲みます」で短い会話ができる。【場面3】 ◆学習項目と場面 【場面1】 顔合わせ 目的：お互いを認識する。 ↓サポーターの問いかけ	できるだけやりとり活動に 集中を！ノートは聞き取っ たことを母語ベースで書き 写す方法でよい。 教材①「はじめましてシ ート」 <input type="checkbox"/> 卓上名札（名簿の名前 で、カタカナのものを準 備するとよい） <input type="checkbox"/> 世界地図があれば便利						
<table border="1"> <tr> <td>1. はじめまして。</td> <td>はじめまして。</td> </tr> <tr> <td>2. 私は[名前]です。</td> <td>お名前は（何ですか）？</td> </tr> <tr> <td>3. 国は[国名]です。</td> <td>お国は（どちらですか）？</td> </tr> </table> ※卓上名札（カタカナ）を作っておき、名前を確認したら、ニ ックネームを聞き、書き添えてプレゼントする。	1. はじめまして。	はじめまして。	2. 私は[名前]です。	お名前は（何ですか）？	3. 国は[国名]です。	お国は（どちらですか）？	
1. はじめまして。	はじめまして。						
2. 私は[名前]です。	お名前は（何ですか）？						
3. 国は[国名]です。	お国は（どちらですか）？						

<p>【場面2】いちばん短い自己紹介 目的：初対面の挨拶ができる。 ↓サポーターの問いかけ</p> <table border="1" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%"> 1. はじめまして。 2. 私は[名前]です。 3. (私は)[国]から来ました。 (うちは[地域]です。) 4. どうぞよろしく。 </td> <td style="width:50%"> ① サポーターの自己紹介 ② ○○さん、お願いします。 </td> </tr> </table> <p>※「うちは[地域]です。」は、自然発話として出る可能性。</p> <p>【場面3】動詞でおしゃべり！～私の食生活～ 目的：①動詞「食べます」・「飲みます」導入 ②食文化の話題を通して、自分について伝える。</p> <table border="1" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%"> 5. はい、食べます。 6. いいえ、食べません。 7. はい、飲みます。 8. いいえ、飲みません。 </td> <td style="width:50%"> みなさん、○○、食べますか [飲みますか]。 </td> </tr> </table> <p>・今日の活動は「現在形」で、自分の嗜好や食習慣を話す。 ・すし、ラーメン、ハンバーガー、サラダ、水、お茶、コーヒー、ビールなどの絵カードを見せて「食べますか」、「飲みますか」の単語会話でよい。 ・個々の言いたいことによっては、右のような語彙が出現したり、求められたりする可能性がある。</p>	1. はじめまして。 2. 私は[名前]です。 3. (私は)[国]から来ました。 (うちは[地域]です。) 4. どうぞよろしく。	① サポーターの自己紹介 ② ○○さん、お願いします。	5. はい、食べます。 6. いいえ、食べません。 7. はい、飲みます。 8. いいえ、飲みません。	みなさん、○○、食べますか [飲みますか]。	<p>教材②「はじめまして」</p> <p>□横浜の地図（あれば便利） サポーターは「[国]から来ました。」のかわりに、地図を見せながら「うちは○○です」にしても可。</p> <p>□絵カード 食べ物の名詞：すし、ラーメン、ハンバーガー、サラダ、水、お茶、コーヒー、ビールなど・・・ ※語彙の広がり おいしい、好きです、嫌いです、だめです、ムスリム、アレルギー、なま など</p>
1. はじめまして。 2. 私は[名前]です。 3. (私は)[国]から来ました。 (うちは[地域]です。) 4. どうぞよろしく。	① サポーターの自己紹介 ② ○○さん、お願いします。				
5. はい、食べます。 6. いいえ、食べません。 7. はい、飲みます。 8. いいえ、飲みません。	みなさん、○○、食べますか [飲みますか]。				
<p>2. 表記：日本語の文字と私の名前（20分）</p>	<p>準備する物・その他メモ</p>				
<p>◆今日の目標 ①文字4種が認識できる ②私の名前(呼び方)がカタカナで書ける。</p> <p>◆着眼点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の文字について知る。 ・サポーターは指示詞「これ」を使ってやりとりする。 ・自分の名前の表記を知り、カタカナに親しむ。 <p>◆活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字紹介 2. 練習 文字カード（3種）ゲーム「これは何?」「早取り、漢字（ひらがな/カタカナ/ローマ字）はどれ?」など 3. 実践 名前（呼び名）をカタカナで書いてみる。 	<p>□名札 ※語彙(指示と応答) 「これは、●●ですか。」 →「はい/いいえ」</p> <p>※例えば「食べ放題」「日本」「横浜」「にほん」「よこはま」「みなとみらい」「おはよう」「コーヒー」「ピザ」などのカードを用意し、学習者にこれは漢字か、ひらがなか、カタカナかを選ぶゲーム</p>				
<p>3. 振り返り（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日学んだことのノートづくり。各自自由に書く →サポーター確認 	<p>各自のノート、または教材③「振り返りシート」</p>				
<p>◆宿題（様子を見ながら適宜増減）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「(いちばん短い)自己紹介」(場面2)を覚えてくる。 2. (できそうなら)名前(呼び名)の書き取り練習 	<p>教材④書き取り用マス目シート</p>				

第2回目	第1週目-②	はじめての にほんご（2） ・自己紹介② 名前を聞く ・時間と教室用語 ・表記②
活 動	60分	1. 会話：自己紹介② 名前を聞く
	20分	2. 表記：あいさつ・名前など
	10分	3. 振り返り
着 眼 点	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 第1回復習から会話を展開 互いの名前や国を聞きあう。（「〇〇人」導入の優先度は低位。） ➢ 日本語の音声に慣れ、発話することに馴染む。 ➢ 手元資料にはローマ字支援。 ➢ あいさつは「朝昼晩」から導入し、次の「～ごはん」の語彙導入につなぐ。 ➢ 時刻の運用は、朝食の時間帯から教室終了から昼食の時間帯（7時ごろ～2時ごろ）に絞って良い。 <p>動詞文は、第1回で導入した「食べます」を使って、「～ごはんを食べます」をめぐりやり取りする。朝ごはんで「食べました」、昼ごはんの予定で「食べます」が運用できる。</p> <p>ます形の4つの形に接触した後、隙間時間で4つの形の口慣らしタイムを作る。</p>	

1. 会話： 自己紹介② 名前を聞く（60分）	準備する物・その他メモ												
<p>◆今日の目標：</p> <p>お互いの名前を覚える・教室で使うことばに慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①お互いの名前や国が聞きあえる。 ②初めての人にあったら、自己紹介ができる。 ③日本語で日常の挨拶ができるようになる。 ④時刻表現の理解と聞き取りができる。⇒『これだけ』下敷 ⑤学習の指示がわかる。 ⑥「〇〇語で何ですか。」が使える。 <p>◆学習項目と場面</p> <p>（1）第1回活動の復習と発展</p> <p>【場面1】自己紹介（1）初対面の自己紹介・相手の名前を聞く。</p> <p>目的：お互いに知り合う。</p> <p>目標：日本語で自己紹介ができる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; padding: 2px;">1. はじめまして。</td> <td style="padding: 2px;">※いちばん短い自己紹介</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">2. 私は[名前]です。</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">3. [国名]から来ました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">4. お名前は？</td> <td style="padding: 2px;">※質問の仕方（働きかけ）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">5. お国は？</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">6. どちらですか。</td> <td style="padding: 2px;">※余裕があれば扱えるかも</td> </tr> </table> <p>※お互いの名前や国を覚えるゲームなども楽しい。</p>	1. はじめまして。	※いちばん短い自己紹介	2. 私は[名前]です。		3. [国名]から来ました。		4. お名前は？	※質問の仕方（働きかけ）	5. お国は？		6. どちらですか。	※余裕があれば扱えるかも	<p>※配布資料にはローマ字支援の加工</p> <p>教材⑤「お名前は？」</p>
1. はじめまして。	※いちばん短い自己紹介												
2. 私は[名前]です。													
3. [国名]から来ました。													
4. お名前は？	※質問の仕方（働きかけ）												
5. お国は？													
6. どちらですか。	※余裕があれば扱えるかも												

（2）日本語で言ってみよう

【場面2】朝、昼、晩の生活のあいさつ

目的：時間帯で使い分ける日常生活のあいさつを知る。

目標：日本語であいさつができる。

1. 朝、昼、晩
2. おはようございます、こんにちは、こんばんは
3. さようなら

※導入するあいさつの語彙数は、グループの反応を見ながら調整してよい。滞在経験があるなど、余裕のあるグループには、「お先に」、「失礼します」、「ありがとう」、「ごめんなさい」など適宜。

【場面3】朝ごはんを食べましたか。

何時に食べましたか。

目的：①数導入：1～12

②●時、●時半

③動詞の活用：食べます・食べません、食べました・食べませんでした

目標：時刻表現を理解し、聞き取りができる。

↓サポーターの問いかけ

1. 数：1～12、15、30、45	
2. ●時●分、●時半	何時ですか。
3. ●時こ（朝ご飯を）食べました。 いえ、朝ごはんを食べませんでした。	朝ごはんを食べましたか。 何時に食べましたか。
4. 食べます・食べません、食べました・食べませんでした	※ます形活用整理

※朝ごはんを食べない学習者の発話から、「何も食べませんでした。」に触れる。

➤ 動詞のます形活用の整理

・活用の口慣らし(ジェスチャーを使う)

	肯定 affirmative	否定 negative
非 過 去	食べます	食べません
過 去	食べました	食べませんでした

※文法用語の導入は不要。

（3）教室用語

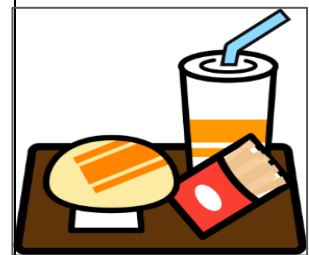
【場面4】教室活動でサポーターの指示を理解する

目的：サポーターの指示を理解して教室活動に取り組む。

目標：学習の指示を聞きとり、行動できる。

□絵カード（あいさつ）

⇒『これだけ』p9



□絵カード：朝・昼・晩
ごはん、時計

□フラッシュカード：数字（1～12、15、30、45）

□『これだけ』したじき

➤身近な文脈で動詞を使いながら、自然に聞き取りや発話に慣れていく。グループの状況に合わせて、扱う内容を調整する。

（以下、追加と発展）

・なかラウンジに何時に来ましたか。

・日本語のクラスは何時からですか。（※「～から」は「～から来ました」で既習。）

「飲みます」活用は適宜。

↓サポーターの問いかけ		<input type="checkbox"/> 絵カード (教室用語) / ジェスチャー <input type="checkbox"/> 教室用語 『これだけ』 p10-11
1. はい いいえ、■■■です。	●●さんですか。	
2. きいてください みてください		
3. はなしましょう かきましよう		
4. わかります わかりません	わかりますか。	
5. すみません、もういちど		
6. ●●語で なんですか。	※余裕があれば。	

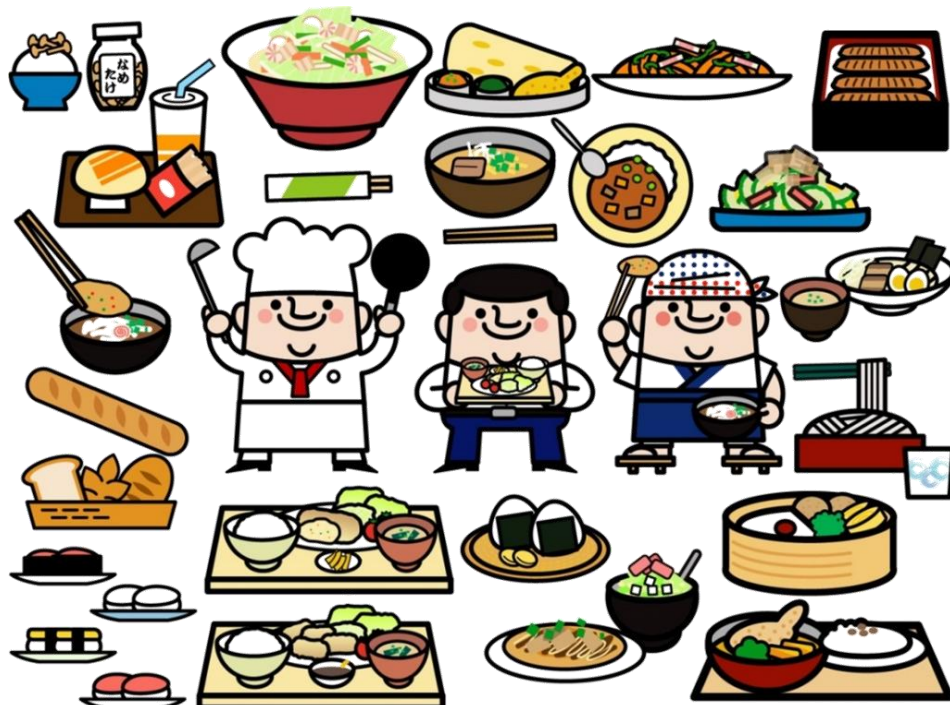
※『これだけ』対訳併記⇒英、中、韓、ハ

2. 表記：あいさつ・名前など (20分)	準備する物・その他メモ
<p>◆文字導入について</p> <p>考え方：①6回コースでは、学んだことばで文字を学ぶ形をとる。 ②導入は、語彙単位で音声と文字表記をつなぐことから始める。 ③「読める→書ける」の順番で習得することを想定する。</p> <p>③ ひらがなは、語彙単位で扱う。 ④ カタカナは、認識力を高めることに重点を置き、語彙単位の認識練習を行う。</p>	
<p>【学習項目】</p> <p>① カタカナ(1) グループメンバーの名札を読む。 ② ひらがな 5語：はい、いいえ、おはよう、こんにちは、こんばんは ③ (余裕があれば)書類を書くときの名前をカタカナで書いてみる。 (振り仮名を求められるケースがある)</p>	
<p>◆目標 ①グループの人の名前のカタカナが読める。 ②ひらがな(あいさつなど) ③書類用の名前 (フルネーム)を確認し、カタカナの書き方を知る。</p>	
◆着眼点	<p>①名札を読む：カタカナの認知力向上と、関係性構築。 ②ひらがな導入：かな学習と語彙理解をつなぐ、学んだ語彙の音声と表規則をつなぐ。 ③(余裕があれば)フルネームのカタカナ：書類(手続きや各種申し込み)で読み方をカタカナで求められることがあることを理解する、漢字の名前の人も同様</p>

※名前の表記について

- ・在留カード…アルファベットで登録できる。振り仮名は特にないので、パスポート表記と同様のことが多いとのこと。
- ・市町村への住民票登録…本人の届出の通りに登録するとのこと。多くは、パスポート表記と同様のことが多いとのこと。(本人が、カタカナで届ければそのようになるとのこと。)
- ・その他、銀行、不動産関連、電話・通信など…企業によって異なり、アルファベットや漢字表記に読み仮名が求められることもありうる。

<p>◆活動</p> <p>(1) みんなの名前を読みましょう</p> <p>目的：カタカナになじむ。 目標：お互いの名前を読んで覚える。</p> <p>(2) 今日のことばとひらがな</p> <p>・5語：<input type="text" value="はい"/>、<input type="text" value="いいえ"/>、<input type="text" value="おはよう"/>、<input type="text" value="こんにちは"/>、<input type="text" value="こんばんは"/></p> <p>・表記 ※五十音表にチェック ※語彙単位で、以下の手順を繰り返す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 語彙単位で読む 2) 各文字導入（書いてみる程度）※挨拶の語末の「は wa」 3) 長音、濁音確認（「おはよう」の「よう」、「こんばんは」の「ば」「いいえ」の「いい」） <p>(3) 名前のカタカナ(2) 書類に書く名前</p> <p>・呼び名（ニックネーム）とフルネームの確認 サポーターの名前で導入、メンバーの名前で確認</p> <p>・個別に<input type="text" value="教材③"/>書き取り用マス目にカタカナで名前を書いて渡す。</p> <p>・各自、<input type="text" value="教材③"/>に書いてみる。</p>	<p><input type="text" value="教材⑥"/>「かな・ローマ字表」、<input type="text" value="名札"/></p> <p>活動の中で出てきた言葉を使ってひらがな学習へ</p> <p><input type="text" value="名札フラッシュカード (名札を集めてもよい)"/></p> <p><input type="text" value="教材⑥"/>「かな・ローマ字表」</p> <p><input type="text" value="かなカード"/></p> <p><input type="text" value="教材④"/>書き取り用マス目</p>
<p>3. 振り返り (10分)</p> <p>・ 今日学んだことのノートづくり。各自自由に書く →サポーター確認</p>	<p>各自のノート、または<input type="text" value="教材③"/>「振り返りシート」</p>
<p>◆宿題 (様子を見ながら適宜増減)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ひらがなの5語の書き取り 2. 書類に書く名前を書いてみる。 	<p><input type="text" value="教材④"/>書き取り用マス目シート</p>



第3回目	第2週目-①	いつ にほんに きましたか ・自己紹介③ 来日/家の場所/行ったところ
活 動	60分	1. 会話：自己紹介③ 来日/家の場所/行ったところ
	20分	2. 表記：場所のことばなど
	10分	3. 振り返り
着 眼 点	> 自己紹介「N[国]から来ました」の運用から、「N[場所]に行きました」へ展開。 > 関係性作り。住まい情報(家の場所)は後日の会話へ繋ぐ話題の情報となる。 「来日」と「[場所]に行きました」は、全員が自分の経験を話せる話題。 自分について話しながら動詞文になじむために、「(から) 来ました」、「(に) 行きました」(過去形)を先に扱う。	

1. 会話： 自己紹介③ 来日/家の場所/行ったところ	準備する物・その他メモ								
<p>◆今日の目標：いつ日本に来て、どんなところに行ったか話す/聞く。</p> <p>①いつ(●年●月)に横浜に来たか話すことができる。</p> <p>②住まいはどこか言うことができる。</p> <p>③(日本に来て)どこに行ったかを言うことができる。</p> <p>④日常生活の用事で行った場所について言うことができる。</p> <p>⑤(これから)行く予定の場所について言うことができる。</p> <p>◆学習項目と場面</p> <p>(0) 第2回活動の復習(挨拶、朝食の話題など)</p> <p>(1) 自己紹介</p> <p>【場面1】 いつ日本に来たか、横浜に来たかについて話す。</p> <p>目的：お互いに知り合う。</p> <p>目標：来日や横浜に来た時期、住んでいる町が言える。</p> <p style="text-align: center;">↓サポーターの問いかけ</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. ○年○月に日本にきました。</td> <td>いつ日本[横浜]に来ましたか。</td> </tr> <tr> <td>2. うちが吉田町です。</td> <td>うちはどこですか。</td> </tr> </table> <p>追加語彙：いつ、うち、どこ</p> <p>(2) 区役所へ行きましたか。</p> <p>【場面2】 横浜(あるいは日本)に来て、行ったところを話す。</p> <p>目的：来日してからの経験を共有する。</p> <p>目標：自分が行った場所が言える。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>3. (私は) 区役所に行きました。</td> <td>区役所に行きましたか。</td> </tr> <tr> <td>4. 日常生活で出かける場所、地名の語彙</td> <td></td> </tr> </table> <p>追加語彙：区役所、郵便局、銀行、大使館、スーパー、コンビニ、デパート、100 えんショップ、公園、その他名所など適宜</p>	1. ○年○月に日本にきました。	いつ日本[横浜]に来ましたか。	2. うちが吉田町です。	うちはどこですか。	3. (私は) 区役所に行きました。	区役所に行きましたか。	4. 日常生活で出かける場所、地名の語彙		<p>※配布資料のローマ字支援は、適宜手を加える。</p> <p>教材⑦年・月</p> <p>教材⑧「来日/誕生日」</p> <p><input type="checkbox"/>数：西暦と月</p> <p><input type="checkbox"/>地図(地域版)あれば便利</p> <p>※横浜以外の地域から引越してきた人にも配慮。</p> <p><input type="checkbox"/>絵カード(場所)</p> <p><input type="checkbox"/>名所案内の地図や絵葉書など</p> <p>教材⑨「～に行きます」</p> <p>・日常生活で必要に応じて行く場所、観光や旅行など、それぞれが「行った経験」をどんどん話し、必要に応じて語彙を広げる。</p>
1. ○年○月に日本にきました。	いつ日本[横浜]に来ましたか。								
2. うちが吉田町です。	うちはどこですか。								
3. (私は) 区役所に行きました。	区役所に行きましたか。								
4. 日常生活で出かける場所、地名の語彙									

(3) 日曜日、どこにいきますか。
 目的：近い将来、予定していることを話す。
 目標：日曜日の予定が話せる。

↓サポーターの問いかけ

5. 日曜日、公園に行きます。	日曜日、どこに行きますか。
6. 日曜日、どこも行きません。	※言いたい人がいれば導入

追加語彙：日曜日
 発展として、教室のあと、どこに行くか、あるいは、土曜日などを話題にしてもよい。

▶ 動詞のます形活用の整理
 ・活用の口慣らし(ジェスチャーを使う)

	肯定 affirmative	否定 negative
非過去	行きます	行きません
過去	行きました	行きませんでした
非過去	来ます	来ません
過去	来ました	来ませんでした

文法用語導入不要。

<p>2. 表記：場所のことばなど（20分）</p> <p>◆ひらがな導入について 考え方：①6回コースでは、学んだことばで文字を学ぶ形をとる。 ②導入は、語彙単位で音声と文字表記をつなぐことから始める。 ③「読める→書ける」の順番で習得することを想定する。 ④ひらがなは、語彙単位で扱う。 ⑤カタカナは、認識力を高めることに重点を置き、語彙単位の認識練習を行う。</p>	<p>準備する物・その他メモ</p>
<p>◆目標 ①今日の語彙のひらがなを読む、書いてみる。 ②カタカナ：今日の語彙から3つの語彙をカタカナで読む。</p> <p>【学習項目】 ① ひらがな 6語：きました、いきました、いきます、にほん、 よこはま、にちようび ※語彙単位で、以下の手順を繰り返す。 1) 語彙単位で読む 2) 各文字導入（書き取り） 3) 長音、濁点確認（今回は「にちようび」の「よう」、「び」）</p> <p>② カタカナ コンビニ、スーパー、デパート フラッシュカードで認識練習</p>	<p>活動の中で出てきた言葉を使ってかな学習へ</p> <p>本導入で、46字のうち18字が導入される。 教材⑥「かな・ローマ字表」 教材④書き取り用マス目</p> <p>※配付物にはいつも名前を書くよう促す。</p>

<p>※カタカナのフラッシュカードは、両面で、イラスト付き (①)、イラストなし (②) で作成し、①、②の順で認知ト レーニングをする。</p>	
<p>3. 振り返り (10分) ・ 今日学んだことのノートづくり。各自自由を書く →サポー ター確認</p>	<p>各自のノート、または 教材③「振り返りシート」</p>
<p>◆宿題 (様子を見ながら適宜増減) 1. 教材⑩「会話」の復習ワークシート 2. ひらがなの5語、カタカナ3語を書いてみる</p>	<p>教材⑩「～へいきます」 (宿題)</p>

メモ



第4回目	第2週目-②	レストランに いきますか レストランで ちゅうもんする
活 動	60分	1. 会話：レストランで ちゅうもん
	20分	2. 表記：指示語・メニュー・国
	10分	3. 振り返り
着 眼 点	<ul style="list-style-type: none"> ➢ レストランの注文場面を設定し、「こそあ」を運用する。（「これ」は、初日からの表記の学習の中で使うことで、すでに理解語彙となっている。） ➢ 今回の活動では、「こそあ」を使う会話を優先し、名詞語彙を増やすための練習は優先しない。 ➢ 「こそあ」が的確に使えれば、語彙をたくさん知らなくても、ほかの人に働きかけをしたり、自分の意志を伝えることが可能であることを学ぶ。 	

1. 会話： レストランで ちゅうもん	準備する物・その他メモ							
<p>◆今日の目標：レストランで注文ができるようになる。</p> <p>①これ・それ・あれ ②これは何ですか ③N1のN2 ④制限や条件を伝える表現 Nは だめです。Nは だいじょうぶです。</p> <p>⑤注文 じゃあ、これとこれ、お願いします。それから、これをお願いします。</p> <p>◆学習項目と場面 (0) 第3回の復習 ・ 日曜日、どこに行きましたか？など。</p> <p>(1) レストランのメニューをみましょう。 【場面1】メニューをみて、料理の名前を聞く。 目的：外食メニューに関心をもつ。 目標：メニューをみて、料理の名前が聞ける。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1. これ、それ、あれ</td> <td>※話者と聞き手の領域に注意。</td> </tr> <tr> <td>2. これは [料理名] です。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>これは何ですか。</td> <td rowspan="2">※料理の名前を聞く。聞き取れたら、繰り返して、お礼を言う。</td> </tr> <tr> <td>[料理名] ですね？ありがとう。</td> </tr> </table> <p>追加語彙：すし、てんぷら、すきやき、うどん、そば、ラーメン、焼き肉、ステーキ、ハンバーガー、サンドイッチ、おにぎり・・・など適宜。</p> <p>(2) どんな料理か尋ねる 【場面2】メニューを見ながら、どんな料理か聞く</p>	1. これ、それ、あれ	※話者と聞き手の領域に注意。	2. これは [料理名] です。		これは何ですか。	※料理の名前を聞く。聞き取れたら、繰り返して、お礼を言う。	[料理名] ですね？ありがとう。	<p>※配布資料にはローマ字支援の加工</p> <p><input type="checkbox"/> レストランのメニュー</p> <p><input type="checkbox"/> 導入と練習には、みんながよく知っている料理の写真やイラストを準備しておく。</p> <p><input type="checkbox"/> 『これだけ』の語彙帳など</p> <p><input type="checkbox"/> 絵カード、写真、ちらし など</p> <p>※個々の状況に合わせて、やさしい日本語で最低限必要な確認ができるように、やり取りの仕方を学ぶ。</p>
1. これ、それ、あれ	※話者と聞き手の領域に注意。							
2. これは [料理名] です。								
これは何ですか。	※料理の名前を聞く。聞き取れたら、繰り返して、お礼を言う。							
[料理名] ですね？ありがとう。								

目的：自分が食べたい物、食べたくない物を選ぶために、最低限の確認ができる。

目標：料理に使われている食材が確認できる。

3. これはN[豚肉・野菜…]ですか。
私はNのアレルギーです。など

追加語彙：肉、魚、玉子、野菜、〇〇料理、豚肉*、牛肉*、鶏肉、ピーナッツ*、小麦粉*

・「～さん、～を食べますか。…はい、食べます。／いいえ、たべません」の会話を通して、メンバーの食習慣や志向を共有しながら、言えることを増やしていく。

(3) 注文する・食べられないものをいう

【場面3】 レストランで注文する。

目的：レストランで注文ができるようになる。

目標：レストランで、自分の食習慣や健康状態にあった食べ物が注文できるようになる。

4. 豚肉[玉子・ピーナッツ…]はだめ/だいじょうぶです。	※「だいじょうぶ」は省略可
5. これは豚肉[卵・小麦粉]を使いますか。	※必要な人にのみ紹介
6. ～ぬき/～だけ	※必要な人にのみ紹介 わさびぬき、野菜だけなど
7. できますか？	※必要な人にのみ紹介
8. N1とN2とN3…	
9. じゃあ、これとこれ、お願いします。	※やり取り重視で助詞「を」は省略可。
10. それから、N、お願いします。	

追加語彙：だめ、だいじょうぶ、できますか/できます、ベジタリアン、ムスリム、Nのアレルギー、ぜんぶ、お願いします、NとN、S。それから、S。

参考：宗教によって食べないもの
 イスラム教：酒、豚肉（ハラール・ミート以外のすべての肉を排除する人も多い。）
 ヒンズー教：牛肉、完全菜食の人数多（酒、根菜類）
 仏教：牛肉、完全菜食の人も
 ロシア正教：1年のうち、完全菜食になる時期が数回ある。
 ユダヤ教：甲殻類（血が赤くない生き物）、生もの
 ※実際には多様で複雑な決まりがあるので、一律に〇〇人とすることはできません。

教材⑪「すき/きらい/だめなたべもの」

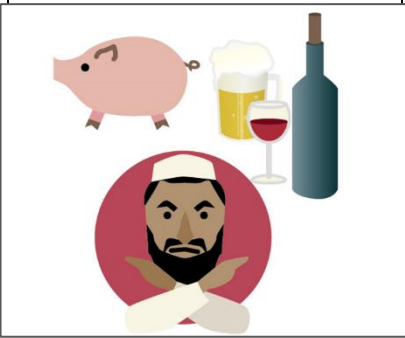
※活動の中で自然と「すき」などが出てきた時に利用する。

*印は宗教的禁忌、アレルギーなど。人によって必要なものを紹介する。

※項目 4~7 は、個別の状況に応じ、必要とする表現を紹介する。

※項目 7.9 は、助詞「を」抜き発話で可。レストランのオーダー場面ではむしろ自然。数詞（～つ）も省略可。数は指で確実に伝えればよい。

項目 9.10 は、談話として紹介し、運用練習する。



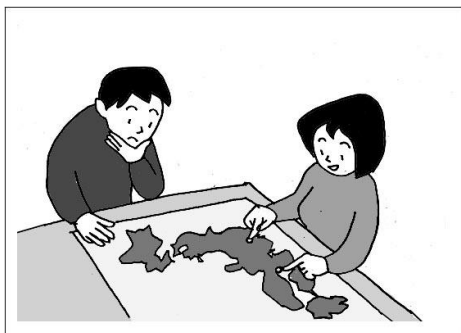
<p>【会話の展開例】</p> <p>客：これ[この料理]は豚肉ですか。 店員：はい、豚肉です。 客：私は、豚肉はだめです。野菜だけの料理はどれですか。 店員：これと、これと、これです。 客：（ほかのサラダをさして）これはハムですか？ 店員：はい、ハムです。 客：ハムぬきはできますか。 店員：はい、できます。 客1：じゃあ、これと、これ、お願いします。それから、コーヒー、お願いします。 客2：私も これと、これと、コーラ、お願いします。</p> <p>➤ ます形活用の整理（学習者が必要とする動詞で）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用の口慣らし(ジェスチャーを使う) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>肯定 affirmative</th> <th>否定 negative</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非 過 去</td> <td>できます</td> <td>できません</td> </tr> <tr> <td>過 去</td> <td>できました</td> <td>できませんでした</td> </tr> <tr> <td>非 過 去</td> <td>使います</td> <td>使いません</td> </tr> <tr> <td>過 去</td> <td>使いました</td> <td>使いませんでした</td> </tr> </tbody> </table> <p>※文法用語導入不要。</p>		肯定 affirmative	否定 negative	非 過 去	できます	できません	過 去	できました	できませんでした	非 過 去	使います	使いません	過 去	使いました	使いませんでした	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者自身が言いたいことが言えることばを探すことを支える。（例、ハムぬきはできますか。） ・ 会話の展開はパターンにこだわることはない。 <p>※全体の重さを考慮して適宜調整。</p> <p>※活動の中でよく出てきて印象に残っている動詞で活用の口慣らしをする。（話します、聞きます、読みます、書きます、わかります、言います）</p>
	肯定 affirmative	否定 negative														
非 過 去	できます	できません														
過 去	できました	できませんでした														
非 過 去	使います	使いません														
過 去	使いました	使いませんでした														

<p>2. 表記（20分）</p> <p>指示語やメニューの言葉、国など 考え方・手順は前回と同じ</p>	<p>活動の中で出てきた言葉を使って文字学習へ</p>
<p>3. 振り返り（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日学んだことのノートづくり。各自自由に書く →サポーター確認 	<p>各自のノート、または教材③「振り返りシート」</p>
<p>◆宿題（様子を見ながら適宜増減）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスで練習した言葉の書き取り 	

第5回目	第3週目-①	なかラウンジは どこですか
活 動	60分	1. 会話：なかラウンジは どこですか
	20分	2. 表記：建物（えき、コンビニなど）の名前
	10分	3. 振り返り
着 眼 点	<ul style="list-style-type: none"> ➢ レストランの注文場面を設定し、「こそあ」を運用する。（「これ」は、初日からの表記の学習の中で使うことで、すでに理解語彙となっている。） ➢ 今回の活動では、「こそあ」を使う会話を優先し、名詞語彙を増やすための練習は優先しない。 ➢ 「こそあ」が的確に使えれば、語彙をたくさん知らなくても、ほかの人に働きかけをしたり、自分の意志を伝えることが可能であることを学ぶ。 	

1. 会話： なかラウンジは どこですか	準備する物・その他メモ										
<p>◆今日の目標：場所を案内したり、場所を確認して行きたい場所に行けるようになる。</p> <p>①ここはN(場所)です。 ②場所の名前（なかラウンジの周辺の目標物） ③Nは どこですか。…～です。 ④すみません。Nはどこ[何階]ですか。…あそこ[2階]です。</p> <p>◆学習項目と場面 (0) 第4回の復習 (1) なかラウンジ案内 【場面1】なかラウンジを案内する 目的：場所の案内ができるようになる 目標：なかラウンジの中を案内することができる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 35%;">1. ここ、そこ、あそこ</td> <td>※話者と聞き手の領域に注意。</td> </tr> <tr> <td>2. ここはN(場所)です</td> <td>※案内のことば</td> </tr> <tr> <td>3. N(場所)はどこですか。 …あそこです。</td> <td>※場所を尋ねるときと、その答え（目視確認）</td> </tr> <tr> <td>4. 見えますか。 …はい。あそこですね？</td> <td>※目視の確認。確認の「ですね？」のイントネーション</td> </tr> <tr> <td>5. ～階、Nの～階 ／何階ですか。</td> <td></td> </tr> </table> <p>追加語彙：窓口、事務所、トイレ、コピー機、会議室、カフェ/喫茶店、横浜スタジアム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の内外を実際に歩きながら案内する活動をするとうい。 ・別の日に外出型タスク活動をすることもできる。例えば、ショッピングセンターのセルテや日本新聞博物館などへ行き、目的のフロアで、値段を調べたりパンフレットを入手したりするタスクを実施するなど。 	1. ここ、そこ、あそこ	※話者と聞き手の領域に注意。	2. ここはN(場所)です	※案内のことば	3. N(場所)はどこですか。 …あそこです。	※場所を尋ねるときと、その答え（目視確認）	4. 見えますか。 …はい。あそこですね？	※目視の確認。確認の「ですね？」のイントネーション	5. ～階、Nの～階 ／何階ですか。		<p>※配布資料にはローマ字支援の加工</p> <p><input type="checkbox"/> なかラウンジのフロアの見取り図やスナップ写真など</p> <p><input type="checkbox"/> ショッピングセンターフロア案内など</p>
1. ここ、そこ、あそこ	※話者と聞き手の領域に注意。										
2. ここはN(場所)です	※案内のことば										
3. N(場所)はどこですか。 …あそこです。	※場所を尋ねるときと、その答え（目視確認）										
4. 見えますか。 …はい。あそこですね？	※目視の確認。確認の「ですね？」のイントネーション										
5. ～階、Nの～階 ／何階ですか。											

<p>(2) 地図を見て話す</p> <p>【場面2】 なかラウンジ周辺の地図を見ながら話す</p> <p>目的：地図上のなかラウンジの位置を確認し、周りにどんなものがあるかを知る。</p> <p>目標：地図を見て、場所を確かめることができる。</p> <table border="1" data-bbox="207 358 662 504"> <tr> <td>6. なかラウンジ周辺の目標物</td> <td>※場所の名前</td> </tr> <tr> <td>7. Nはどこですか。 …ここです。</td> <td>※一緒に見ている地図を指さしながら話しているとき。</td> </tr> </table> <p>追加語彙：区役所、市役所(市庁舎)、横浜スタジアム、駅、バス停、スーパー、コンビニ、ラーメン屋 など適宜</p> <p>(3) 目的地へ行く</p> <p>【場面3】 不案内な場所で、目的地に向かう。</p> <p>目的：自分の目的地の位置を確認しながら移動できる。</p> <p>目標：目的地を言って、場所を尋ねることができる。</p> <p>【会話の展開例】</p> <p>A：すみません。</p> <p>B：はい。</p> <p>A：市役所はどこですか。</p> <p>B：市役所はあそこです。※指で示す。</p> <p>A：ああ、あそこですね。ありがとうございます。</p> <p>➤ 動詞のます形活用の整理 クラスで出てきた動詞を使って活用の口慣らし</p>	6. なかラウンジ周辺の目標物	※場所の名前	7. Nはどこですか。 …ここです。	※一緒に見ている地図を指さしながら話しているとき。	<p>□タウンマップなど</p> <p>※個々の状況に合わせて、やさしい日本語で最低限必要な確認ができるように、やり取りの仕方を学ぶ。</p> <p>※日を改めて、外出型タスク活動などで実際に使用に挑戦するのもよい。</p>
6. なかラウンジ周辺の目標物	※場所の名前				
7. Nはどこですか。 …ここです。	※一緒に見ている地図を指さしながら話しているとき。				
<p>2. 表記（20分）： 建物の名まえ 考え方、進め方は同じ</p>	<p>活動の中で出てきた言葉を使って文字学習へ</p>				
<p>3. 振り返り（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日学んだことのノートづくり。各自自由に書く →サポーター確認 	<p>各自のノート、または教材③「振り返りシート」</p>				
<p>◆宿題（様子を見ながら適宜増減）</p> <p>①数（値段）の復習 ※次回内容予告：「買い物」</p> <p>②ひらがなの6語、カタカナ1語の書き取り。</p>					



第6回目	第3週目-②	かいもの
活 動	60分	1. 会話：買い物
	20分	2. 表記：品物の名まえ
	10分	3. 振り返り
着 眼 点	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日常生活で使ってみたくなる場面の設定として、買い物場面に挑戦する。 ➤ 買い物の文脈では「高いですね」、「安いですね」は無理なく理解される。そこで、「高い・高くない」「安い・安くない」までの活用も無理なく扱える。ただし、本日、どこまで扱うかは学習者の状況に合わせて判断する。（「高い、安い」のみ扱う、または 否定形も合わせて扱う。） ➤ 文字学習では、五十音表でマークできた文字を確認し、「あいうえお」を導入する。 ➤ カタカナの学習では、買い物の場面に使用した『品物の名詞』を活用してトレーニングをする。 	

1. 会話： かいもの	準備する物・その他メモ
<p>◆今日の目標：商店および、家電やワインの売り場などで、買い物ができるようになる。</p> <p>①値段： ～円 ※ 漢字認識（円、百、千、万）を扱うのもよい。</p> <p>②いくらですか。…～円です。 ※ 「高い・安い」、「高い／高くない」・「安い／安くない」</p> <p>③N1のN2 （品物の生産地、原産地、メーカー）</p> <p>④どこのNですか。…N1のN2です。</p> <p>⑤じゃ、それをください。</p> <p>⑥そうですか。（じゃ、いいです。）</p> <p>◆学習項目と場面 (0) 第5回の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーの写真やチラシなどを利用して、前回学習したことを運用しながら本日のトピック導入を兼ねたアイスブレイキングをするとよい。 	<p>※配布資料にはローマ字支援の加工</p> <p>※「高い、安い」は言いたくなかった時に扱う。</p> <p>⑤、⑥買い物の談話。</p>

（1）ねだん

【場面1】値札やチラシの数字を読んでみる。

目的：値段に使われる数字になじむ。

目標：聞き取れるようになる。

1. ○○円

※話者と聞き手の領域に注意。

追加語彙：漢字導入（円、百、千、万）

- ・フラッシュカードで導入・練習
- ・チラシなど、レアリアを活用した認識力アップの練習
- ・聞き取り練習（サポーターが言った値段を聞き取って、ワークシートにチェックする。）

※「ゆっくりおねがいします」、「わかりませんでした」、「もういちどお願いします」などの運用の場にもなる。

各種値段のフラッシュカード

チラシなど値段が書かれているもの

教材⑫ねだん「ききましよう」

（2）値段を聞く

【場面2】値札がついていない品物の値段を聞く

目的：値段がわからなくても、人に聞いて確かめる。

目標：値段を聞いて、確かめることができる。また、値段が言える。

2. いくらですか。…○○円で
す。

追加語彙：高い（です）、安い（です）、買いますか。…はい。
買います。／いいえ、買いません。

インフォメーションギャップのタスクなどの展開も可。

値段を正確に言うタスクは、日本語の発話に慣れるためには有効だが、この段階の実生活ではあまり必要ない。ただし、今後小売り、飲食店、各種サービス業で仕事する際には必要になる。

チラシ、広告

品物カードなど

（3）品物について聞く

【場面2】品物の情報を確かめる。

目的：生産地、原産地、メーカーなど、自分がほしいものを確認して買うことができる。

目標：生産地、原産地、メーカーがどこか、確かめることができる。また、答えられる。

3. N1のN2

4. どのNですか。…N1の
N2です。

追加語彙：国（原産地）の名前、メーカーの名前

いろいろな品物（実物）

（4）買い物に行こう

【場面3】家電フロア、ワイン売り場、個人商店、土産物屋など、店員とコミュニケーションがある場での買い物

目的：買い物ができるようになる。
 目標：自分がほしいものを確認し、必要なものを買、不要なものは勧められても適切に断ることができる。

【会話の展開例】

A：すみません。カメラ売り場はどこですか。

B：〇階です。

A：ありがとうございました。

B：いいえ。

A：すみません。パソコン売り場はどこですか。

C：こちらです。

A：これはいくらですか。

B：これは*****円です。

A：ちょっと高いです。これはいくらですか。

B：これは*****円です。

A：これは？

B：これは*****です。

A：いいですね。じゃ、これをください。

B：ありがとうございます。

- ・ 日を改めて、外出型タスク活動などで実際に使用に挑戦するのもよい。

➤ 動詞のます形活用の整理

- ・ 活用の口慣らし(ジェスチャーを使う)

	肯定 affirmative	否定 negative
非 過 去	買います	買いません
過 去	買いました	買いませんでした

※文法用語導入不要。

※学習者の行きたいお店を場面とする。

※どんどん自由に買い物タスクを試してみる。

※実生活では店員側の会話をすることはないと考えられるので、少人数なら、サポーターが店員役をしたり、ビジターに入ってもらったりするのもよい。(いずれ、仕事をする人もいるかもしれないと、割り切って、ロールプレイングの練習をするのもよい。

話します、聞きます、読みます、書きます、わかります、言います

2. 表記（20分）

- ・ 品物の名前
- ・ 長音/促音/撥音/拗音の書き方を既出の言葉を使ってまとめてもよい。

活動の中で出てきた言葉を使って文字学習へ

3. 振り返り（10分）

- ・ 今日学んだことのノートづくり。各自自由に書く →サポーター確認

各自のノート、または教材③「振り返りシート」

◆宿題（様子を見ながら適宜増減）

- ①次回から、『にほんごこれだけ』に入ることを予告。
- ②クラスで書いてみた言葉の書き取り練習。

6回でひらがなに慣れたので、次回からあ行からもう一度学んでいく。

《オリジナル教材リスト》

- 教材① 「はじめましてシート」
- 教材② 「はじめまして」
- 教材③ 「振り返りシート」
- 教材④ 書き取り用マス目シート
- 教材⑤ 「お名前は？」
- 教材⑥ 「かな・ローマ字表」
- 教材⑦ 年・月
- 教材⑧ 「来日/誕生日」
- 教材⑨ 「～に行きます」
- 教材⑩ 「～へいきます」(宿題)
- 教材⑪ 「すき/きれい/だめなたべもの」
- 教材⑫ ねだん「ききましょう」